

二〇二六年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(文学研究科 日本史学専攻)

(科目名:専門科目)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

2026年2月21日(土)

専門科目筆記試験 (日本史学専攻) 一般入試問題 (1/3)

I 次の(一)～(八)の論述問題から二題を選んで答えなさい。(選択した番号を明記すること)

(一) 平安時代の国司について、論述しなさい。

(二) 鎌倉幕府の訴訟制度について、論述しなさい。

(三) 寛政の改革について、論述しなさい。

(四) 岩倉使節団外遊中の政府(留守政府)が抱えていた外交問題について、論述しなさい。

(五) 地方改良運動と仏教について、論述しなさい。

(六) 同範鏡と同型鏡について、論述しなさい。

(七) 田山四条派について、論述しなさい。

(八) 染料を用いた各種文化財の観察・分析方法と、保存管理上注意しなければならない点について、論述しなさい。

二〇二六年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(文学研究科 日本史学専攻)

(科目名:専門科目)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

2026年2月21日(土)

専門科目筆答試験 (日本史学専攻) 一般入試問題 (2/3)

Ⅱ 次の(一)～(四)の史料問題から一題を選んで答えなさい。(選択した番号を明記すること)

(一) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

左弁官下

応任先例免除大^{〔一〕}兼寺所領庄園等収公事

一 近江国

野洲郡野洲庄

自余、依事案略之

右傳^{〔二〕}彼寺去八月十一日奏^{〔三〕}奏内、件庄庄水田、^{〔四〕}是領明天皇御世百町、天武天皇御世三百町、聖武天皇御世百町、三代帝王一心帰依、所被勒施也、自爾以來、無収公之愁、而及于末代、或国司悉以収公、或郡司百姓不意之聲、号私領、悉入已犯用其地利、為公家無益、寺家有愁、望請天恩、令競造寺之時、給官符於件等國、被裁免彼庄庄収公并隨時雜役之責、任本願御誓、以其他利犯用仏事作科者、右大臣宣、奉勅、任先例免除者、国司承知、依宣行之、

治安三年九月廿三日 少史小宅真人^{〔五〕}

中弁藤原朝臣^{〔六〕}

(『平安遺文』)

問一 この史料の名称を漢字三文字で書きなさい。

問二 傍線部①の奏状の内容に当たる部分を読み下し文(漢字かな交じり文)にしなさい。

問三 傍線部①の内容について、現代語で要約しなさい。

問四 傍線部②について、二人の天皇と水田が施入された寺院との関係を説明しなさい。

(二) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

(安徳三年六月)十四日、辛巳、々^{〔一〕}烈雨下、但不及中御門以南云々、今日^{〔二〕}祇園御靈会^{〔三〕}、山以下可參斎町殿之口被仰之雨、万里小路北行、鷹司^{〔四〕}行、高倉北行、^{〔五〕}仙洞御前并内裏東台通之、是内々為御見物殿、室町殿四足北被御^{〔六〕}被敷御見物云々、^{〔七〕}神幸還御、於四条道場前、被与^{〔八〕}丁与^{〔九〕}河原者喧嘩、被与^{〔十〕}丁等、河原有家等令放火之間、忽以焼亡、(中略)被与^{〔十一〕}丁参裏冲興於路次之間、侍所^{〔十二〕}宿禰与^{〔十三〕}丁等奉成神幸云々、希代事也、

(『師郷記』)

問一 傍線部①について、知るところを説明しなさい。

問二 傍線部②を転記して、訓点を施しなさい。

問三 傍線部③を読み下し文(漢字かな交じり文)に改めなさい。

問四 右の史料全文を、現代語訳しなさい。

二〇二六年度 大学院(修士課程) 入学試験問題

(文学研究科 日本史学専攻)

(科目名:専門科目)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

2026 年 2 月 21 日(土)

専門科目筆答試験(日本史学専攻) 一般入試問題(3/3)

(三) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

【引用部分は削除しています】

(中村達夫氏所蔵文書)

問一 右の史料は、慶長六年(一六〇一)一月に島津忠恒(のち家久)が井伊直政に送った書状である。その一か条目の本文を読み下し文(漢字かな交じり文)に改めなさい。

問二 二か条目の本文をすべて転記して、訓点を付けなさい。

問三 三か条目の本文を読み下し、すべて平がなで表記しなさい。

問四 右の史料の内容を参考に、徳川家康、井伊直政と大名島津氏の関係を説明しなさい。

(四) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

明治(33)年1月27日

岸啓 時下尊安参賀候。過日は御来京に相成奉拝謝候。殊に其初には好物之奥御持参毎に貴配致し奈存候。玆玆書には御帰京之由故御拝顔度有候得共、此所柄は控御無沙汰致候段御省忍候為下度候。玆玆宗教法按之儀此所之状況甚心配致候に付、奏曲大洲順道へ申寄、同人より可申上候に付、御聞取被為下度候。何分政府之御決心乍輕微弱には無之哉。只々^③東西兩派の争の如き御見物而は為国不堪慨歎候。既に昨年七月之政教云々に付て内務大臣の訓令も忘れたるか如き觀有之、進而は國家前途に關し、退而は一派之消長にも關し、不肖不堪心痛候。御帰京之上は總理大臣始にも宜御演説被為下度候。別而嚴禁之際御目重疊傳候也。

一月念七

^③ 対峙

念仏庵主

(品川弥三郎関係文書)

問一 傍線部①を読み下し文(漢字かな交じり文)に改め、漢字にはルビをふりなさい。

問二 傍線部②の具体的内容について説明しなさい。

問三 傍線部③の人物について説明しなさい。